

第2号議案 平成28年度決算報告

決算概要

平成28年度は、前年度の110周年記念事業の継続、マナスル登頂60周年記念と国民の祝日「山の日」普及の催しと大きなイベントが続いたために赤字決算となった。しかし、以前から実施している経常赤字解消の方策の効果が顕著になり、財政健全化に向かって薄明りの見える決算となった。

経常収益合計126,306千円は、対前年比で4.0%減少しているが、経常費用合計も134,316千円となり、14.7%減少した結果、当期経常増減額（経常損失）は、8,009千円の赤字となった。最終損益である当期一般正味財産増減額（当期損失）も同額であって、赤字幅は対前年比で17,908千円減少した。この赤字の主因は、110周年記念事業の正味負担額が5,802千円あったためである。

当年度を含む3年間の110周年記念事業の収益と費用を、経常損益から除いた正味財産増減計算書（損益計算書）の経常増減の部を示したものが以下の表である。過去5年間の事業年度では、経常損益の赤字幅は、600万円前後であったが、平成26年度から財政再建、赤字解消のための計画を策定し、収入の増加や経費削減に努めた結果、当年度の経常赤字幅は2,207千円にまで減少した。

110周年記念事業に係る損益を除外した経常損益(増減額)

(単位千円)

科目	平成28年度	平成27年度	平成26年度	
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
経常収益計	108,077	123,052	102,429	
経常費用計	110,284	129,444	108,664	
当期経常増減額	△ 2,207	△ 6,392	△ 6,235	
110周年記念事業に係る損益				110周年記念事業
収益				3年通算収益
110周年記念募金寄付等	18,230	8,420	8,454	35,104
費用				3年通算費用
110周年記念事業費	24,032	27,947	12,690	64,670
正味110周年記念事業費	△ 5,802	△ 19,526	△ 4,237	△ 29,566
当期一般正味財産増減額	△ 8,010	△ 25,918	△ 10,471	

創立110周年記念事業は、過去3年間に渡り、総事業費64,670千円、正味事業費では29,566千円を費やしたが、この資金は、予め計画された海外登山基金によって賄われた。平成28年度の海外登山基金による助成金支出は、下の表のとおりである。上記の当年度正味事業費5,802千円との差額は、110周年記念事業である各海外登山隊への寄付金収入があったためである。

110周年記念事業の助成金支出	(単位千円)
関西支部ネパール登山隊 助成金	1,500
氷河湖調査学術登山隊 助成金	1,000
三国学生交流登山日本実施助成金	4,096
マナスル登頂60周年記念事業	980
学生部西ネパール登山隊返金	△ 1,568
合計	6,008

当年度の110周年記念募金寄付等18,230千円の大半は、関西支部ネパール登山隊の募金等によるものである。

当会の収益の推移

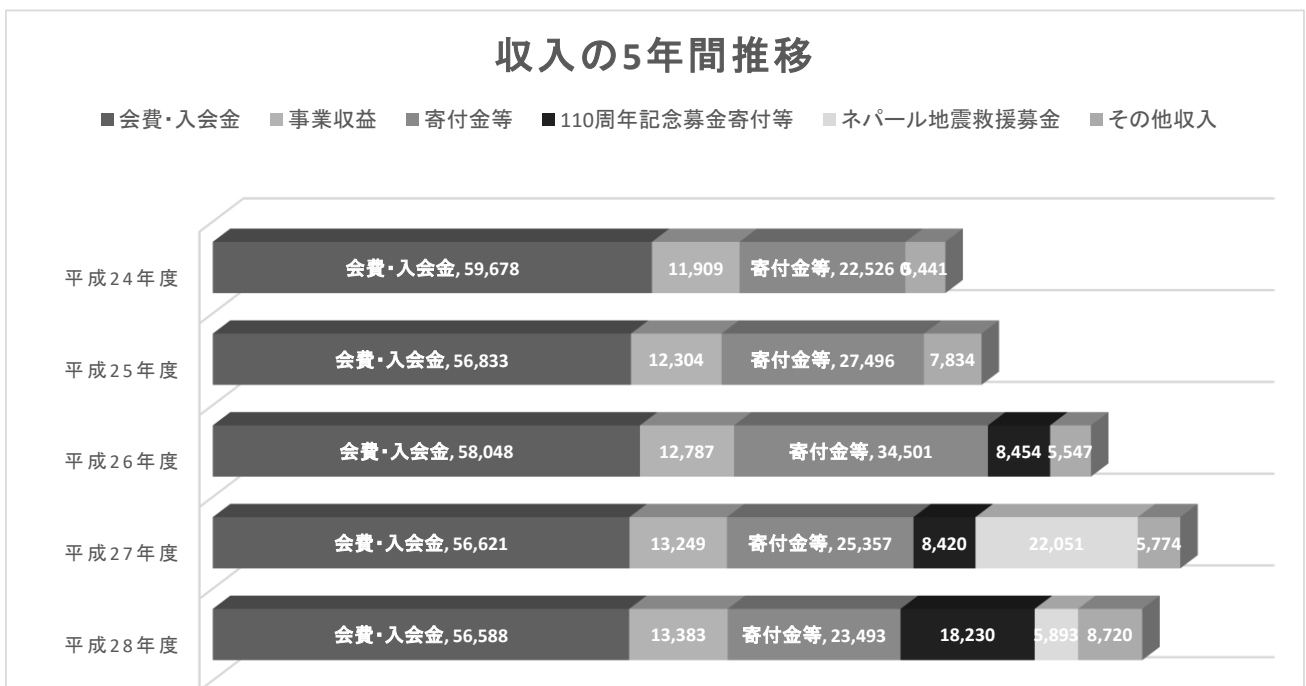
当会の経常収益合計額は、126,306千円となり、前年度に多かったネパール大地震救援募金が減少したことにより、対前年比で4.0%減少した。平成28年10月から準会員制度が開始されたが、会員と準会員の増加数は、前年度の新会員とほぼ同数であった。会員と準会員の受取会費の合計額は、52,449千円となり、対前年比で僅かに増加したものの、会費と入会金の合計額は微減となった。

下記の5年間の推移表では、この間の会員数はほぼ5千人前後で横ばいであるが、会費滞納者と会費免除会員の増加により、会費と入会金の合計額は減少を続けていることが明らかである。

収益の5年間の推移		千円単位で費目を要約している。			
	平成28年度	平成27年度	平成26年度	平成25年度	平成24年度
会費・入会金	56,588	56,621	58,048	56,833	59,678
事業収益	13,383	13,249	12,787	12,304	11,909
寄付金等	23,493	25,357	34,501	27,496	22,526
110周年記念募金寄付等	18,230	8,420	8,454		0
ネパール地震救援募金	5,893	22,051			0
その他収入	8,720	5,774	5,547	7,834	5,441
	126,307	131,473	119,337	104,467	99,554

寄付金等については、前年度まで、「受取民間助成金」として表示していた公益法人等からの助成金と、「受取寄付金」に含めて表示していた企業からの寄付金を、当年度より、「受取法人寄付金」として区分掲記したため、正味財産増減計算書の前年度との勘定科目の入り繰りが発生している。しかし、その内訳は上の表のように、110周年記念募金の寄付金等、ネパール地震救援募金、(その他の)寄付金等に3分される。寄付金等については、支部における周年事業の募金によって変動するものの、当会が公益法人に移行した後の5年間は順調に増加し続けている。

事業収益は、主に年次晩餐会の参加料収入であるが、13,383千円となり、前年度比で微増ではあるが、この5年間で順調に増加している。その他収入の内訳は、登山教室などの収入など雑多なものであるが、同じく順調に増加している。



事業費と管理費の推移

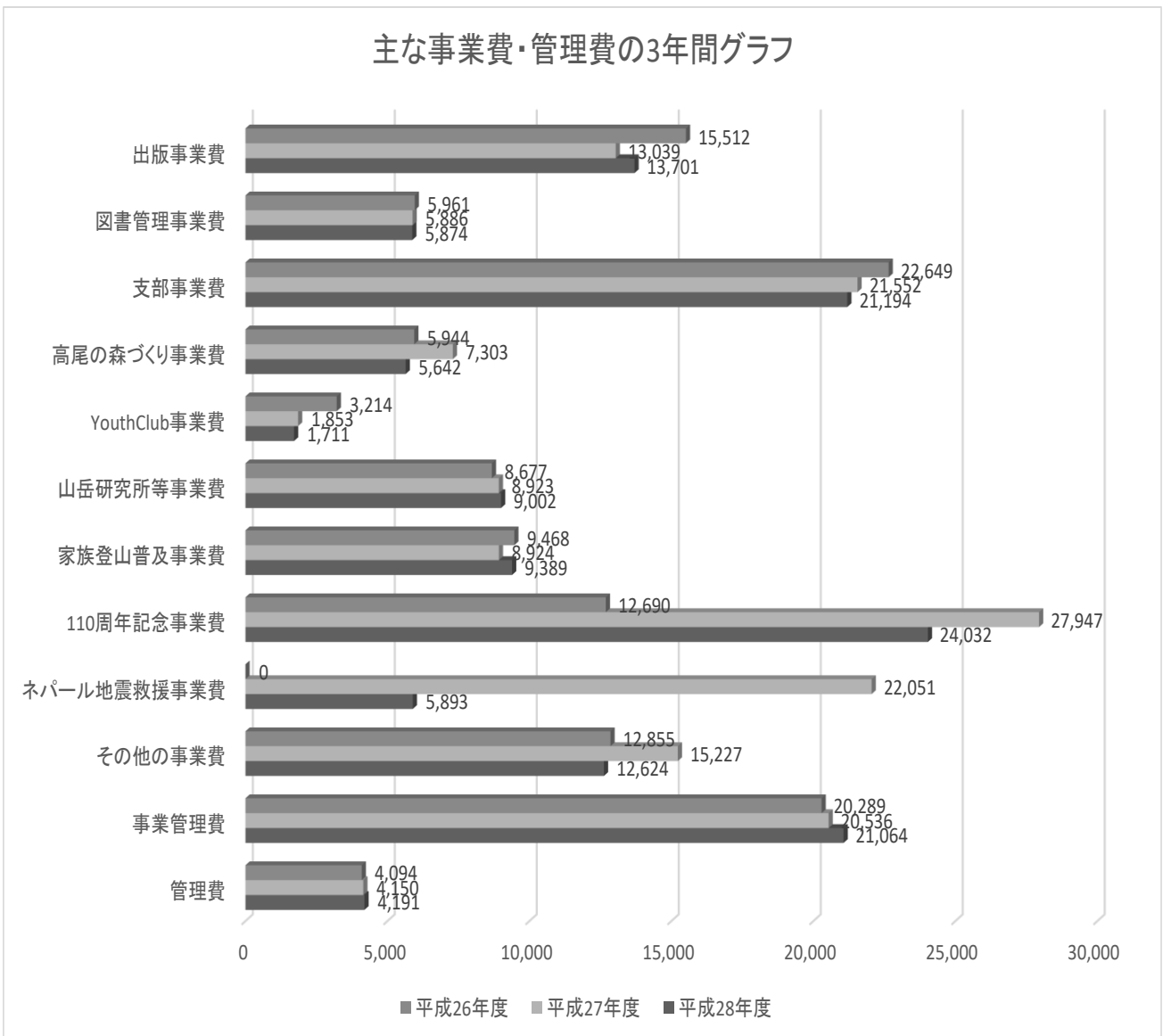
事業費については、総額で130,126千円となり、前年度比23,115千円、15.1%の減少となっているが、その要因は、募金によって集めたネパール地震救援事業費と110周年記念事業の減少によるものである。最初の表にあるように110周年記念事業費を除いた経常的な事業費は、経費節減効果もあって前年度比で14.7%減少した。

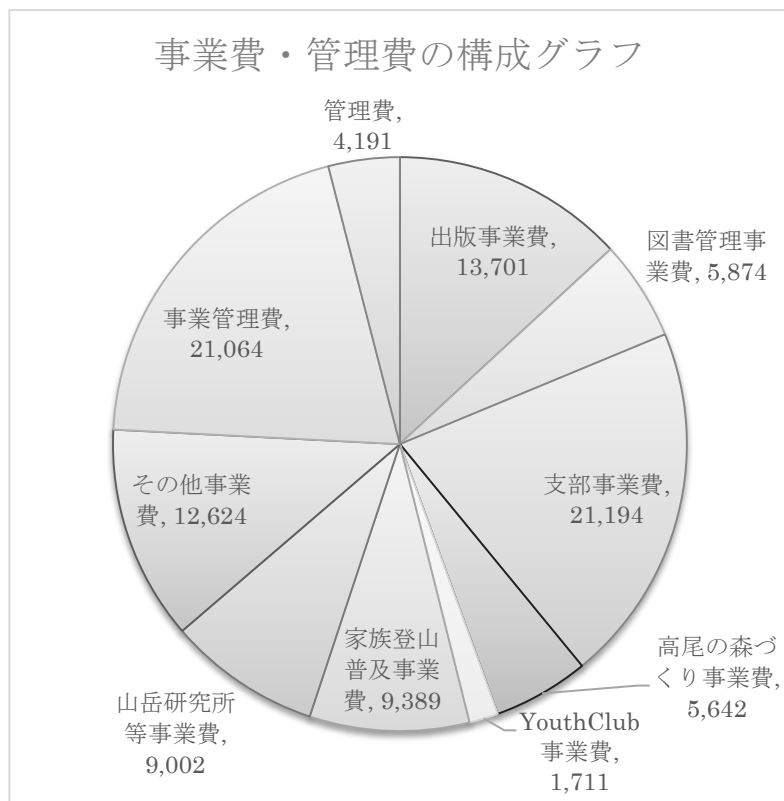
出版事業費は、13,701千円となり、「山」の発送方法を変更したことに伴い前年比で僅かに増加しているが、封入物についての郵送費の節減効果があるので、その他事業費の減少に寄与している。

支部事業費は、本部からの各支部に交付した運営交付金及び支部事業助成金7,335千円と新入会員獲得奨励金652千円、特別事業助成金等1,000千円を原資とする支部の活動費用であるが、当年度は、21,193千円となり、前年度比で僅かであるが1.7%の減少となった。

上高地山岳研究所事業費（ミニ水力発電事業費含む）は、減価償却費等を含み当年度は9,002千円となった。上高地山岳研究所は、利用者とその収入は増加しているが、建物の経年劣化による修繕費用の増加が続いている。当年度には消防設備を更新して993千円を固定資産に計上した。

主な事業費・管理費の3年間グラフ





その他事業費は、年次晩餐会の参加費によって賄われる開催費用が主な支出であるが、当年度は、110周年記念事業の関連行事が少なくなったため、12,624千円となり、対前年度2,603千円、17.1%の減少となった。事業管理費及び管理費（間接費）については、本部事務所の維持費用及び人件費、通信費、支払手数料などであるが、経費節減に努めたものの、僅かに2.3%増加する結果となった。

左の図からは、110周年記念事業費とネパール地震救援事業費を除いている。

貸借対照表の説明

以上の結果、平成29年3月末現在の貸借対照表において、現金預金は37,850千円となり、前年度比で6,524千円、20.8%増加し、流動資産合計も47,729千円となって、5,294千円、12.5%増加している。この主な要因は、固定資産である特定資産の定期預金が減少したことによる効果である。

特定資産である海外登山基金（定期預金）を、110周年記念事業などのために6,008千円を取り崩した結果、当年度末残額は10,760千円となった。海外登山基金は、「基金及び積立金等規程」によって「本会又は外部団体の海外登山等の助成金に当てるための資金として保有する」ものであり、当会が公益法人化するにあたり、監督官庁には「110周年記念事業の海外登山等のために留保されている特定資産」として利用計画を届け出していた。当年度をもって110周年記念事業が終結したが、取崩しを行わずに、今後の海外登山等の助成金及び120周年記念事業の海外登山の助成金を対象として10年間で利用することに変更した。

特定資産の長期計画準備金は、上高地山岳研究所の修繕費用又は再建費用として留保されている預金であるが、当年度は消防設備の更新のために993千円を取り崩した結果、29,990千円となった。

これらの結果、特定資産合計は、72,888千円となり、前年度比12.6%減少する結果となっている。

その他固定資産の減少は、主に減価償却によるものである。この結果、固定資産合計は、対前年度比で16,248千円、6.6%減少し230,804千円となり、資産合計も278,533千円となって、10,954千円、3.8%減少することになった。

負債も僅かに増加した結果、正味財産額は、269,645千円となり、11,912千円、4.2%の減少となっている。